

令和元年度 石川工業高等専門学校の課題 外部評価報告書



令和2年2月

はじめに

石川工業高等専門学校は、今をさかのぼること54年前、昭和40年4月に国立高等専門学校第4期校として設立されました。創立以来既に半世紀を超え、我が国産業界を支える8,389名(女子1,421名)におよぶ卒業生や487名(女子94名)の専攻科生を輩出してまいりました。この間、社会、特に産業技術の世界は当時想像もつかなかった大きな革新・変貌を遂げており、当然のことながら石川高専の置かれた環境も大きな影響を受けています。本校は、このような時代の変化に適応すべく、これまで時宜にかなったカリキュラム編成や授業シラバスの変更等を重ねてまいりました。最近ではグローバル人材育成に向けた国際交流事業、情報セキュリティ人材育成事業や、地域活性化を旨として地元産業界との連携活動に取り組むなど、その教育システムは絶え間ない変革と進化を遂げて今日に至っております。

本校では、教育・研究の改善に資するために、平成7年に自己点検評価部会を設置し、点検・評価の結果を報告書『明日へ向けて』として、3年ごとに発行しております。同時に運営諮問会議を設置し、地元の教育研究機関、行政機関、企業等の学外有識者による外部評価を毎年開催しております。

平成16年4月以降は、独立行政法人国立高等専門学校機構(高専機構)の発足とともに、他の国立高専と同様、5年を1期とする中期目標・中期計画を策定して運営に当たり、令和元年度からはその第4期目を開始しました。

外部評価としては、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」が7年ごとに行われており、平成27年度に受審しました。また、同機構による認定専攻科(平成12年4月設置、電子機械工学専攻・環境建設工学専攻)を対象とした審査は、平成17年度に続いて平成24年度に受審し、引き続き「適」と認められました。さらに、本科専攻科は平成26年5月に「学位授与に係る特例の適用認定」を申請し、認定を受けました。これまで同機構が行っていた「小論文試験」が省略され、一定の条件を満たすことにより学士(工学)の学位が授与されることになりました。一方、JABEE(日本技術者教育認定機構)対応教育プログラムとしては、本科4年生から専攻科までの4年間で構成される「創造工学プログラム」を平成17年度に設定し、平成22年度に続いて平成28年度更に6年間の継続が認定されました。

これらの数年ごとに実施される外部評価に対して、運営諮問会議による外部評価は、地域の事情に精通されている有識者の方々から評価をいただくもので、毎年実施されております。ほぼ各県に1校ずつ設置されている国立高専は、産学連携や技術者人材輩出等の地域貢献が重要な使命の一つであり、運営諮問会議は地域の様々なニーズを踏まえた御意見をお伺いできる貴重な会議と認識しております。

このような状況下で、このたび地域の学外有識者の方々に本校の現状を知っていただき、本校の教育活動、研究活動、社会活動、管理運営等について、忌憚のないご指摘とご意見をお願いするために、去る令和2年2月28日に運営諮問会議を開催しました。

本報告書は各委員からの評価をそのままの形でまとめてあります。良い評価をいただいている項目がある一方で、厳しい評価をいただいた項目があることも認識できます。厳しい評価内容については逐次分析し、それらに対応した改革を積極的に遂行することが、本校に課せられた重要な使命であり、それがまた評価していただいた委員の方々の労に報いることでもあると考えております。

最後になりましたが、運営諮問会議の方々には、ご多用な中、多大な労に心から深く感謝申し上げますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和2年3月16日

石川工業高等専門学校
校長 須田 義昭

目次

はじめに

I	これまでの経過	1
II	外部評価（運営諮問会議）	2
	1 石川工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿	2
	2 令和元年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要	3
	3 外部評価シート	8
III	運営諮問会議の意見の要約（講評）	
	運営諮問会議議長 浅野 哲夫	12
	運営諮問会議実施の公表	13
	おわりに	14

I これまでの経過

第1回運営協議会（平成16年3月開催）

第2回運営協議会（平成17年3月開催）

第3回運営協議会（平成18年3月開催）

第4回運営協議会（平成20年3月開催）

平成20年度運営諮問会議（平成21年3月開催）

平成21年度第1回運営諮問会議（平成21年11月開催）

平成21年度第2回運営諮問会議（平成22年3月開催）

平成22年度運営諮問会議（平成23年3月開催）

平成23年度運営諮問会議（平成24年3月開催）

平成24年度運営諮問会議（平成25年2月開催）

平成25年度運営諮問会議（平成26年2月開催）

平成26年度運営諮問会議（平成27年2月開催）

平成27年度運営諮問会議（平成28年2月開催）

平成28年度運営諮問会議（平成29年3月開催）

平成29年度運営諮問会議（平成30年3月開催）

平成30年度運営諮問会議（平成31年2月開催）

令和元年度運営諮問会議（令和2年2月開催）

II 外部評価（運営諮問会議）

1 石川工業高等専門学校運営諮問会議 委員名簿

北陸先端科学技術大学院大学 学長	浅野 哲夫
石川工業高等専門学校 同窓会会長 (福島印刷株式会社 生産技術部長)	金子 浩治
公益社団法人 石川県産業創出支援機構 副理事長	斉藤 直
石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長 (福島印刷株式会社 取締役社長)	下 畠 学
石川県商工労働部長	徳田 博
石川県小中学校校長会 会長 (金沢市立芝原中学校長)	福永 伸治
金沢大学大学院自然科学研究科長	森本 章治
津幡町長	矢田 富郎

(五十音順)

2 令和元年度石川工業高等専門学校運営諮問会議議事概要

(1) 日 時 令和2年2月28日(金) 13:30~15:30

(2) 場 所 石川工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室

(3) 出席者

・運営諮問会議委員

浅野 哲夫 (北陸先端科学技術大学院大学 学長)

金子 浩治 (石川工業高等専門学校 同窓会会長)

(福島印刷株式会社 生産技術部長)

下 島 学 (石川工業高等専門学校 技術振興交流会 会長)

(福島印刷株式会社 取締役社長)

森 本 章 治 (金沢大学大学院自然科学研究科長)

・学校側出席者

校 長	須 田 義 昭
副校長 (管理運営担当), 技術教育支援センター長	西 澤 辰 男
副校長 (地域・国際連携担当)	瀬 戸 悟
校長補佐 (教務主事)	金 寺 登
校長補佐 (学生主事)	北 田 耕 司
校長補佐 (寮務主事)	畔 田 博 文
校長補佐 (図書情報主事, 図書館長)	八 田 潔
専攻科長	義 岡 秀 晃
校長補佐 (入試広報担当)	富 田 充 宏
事務部長	本 芳 則
総務課長	山 本 隆 裕
学生課長	米 内 治

・欠席者 斉藤委員, 徳田委員, 福永委員, 矢田委員

・会議写真



浅野議長



須田校長



森本委員



金子委員



下畠委員



(4) 議事概要

【開 会】

総務課長から、令和元年度運営諮問会議の開会宣言があり、出席委員の紹介、本校出席者の紹介を行った。引き続き、配付資料の確認、日程の確認を行った。

【校長挨拶】

須田校長から、挨拶の後、当会議の議長を浅野委員（北陸先端科学技術大学院大学学長）に委嘱したい旨提案があり、了承された。また、運営諮問会議委員に対し、配付資料及び当会議の結果を踏まえた評価シートへの評価記載について、協力依頼があった。

【議 事】

1. 「石川工業高等専門学校の実況 外部評価のための資料」の概要
標記全体説明及び資料の各章の概要について、次のとおり説明があった。

全体説明（須田校長）

I 理念・目的

第1章 学校の目的（西澤副校長）

II 教育活動

第2章 教育組織（実施体制）（西澤副校長）

第3章 教員及び教育支援者等（西澤副校長）

第4章 学生の受け入れ（冨田校長補佐）

第5章 教育の方法および内容（金寺教務主事）

第6章 教育の成果（金寺教務主事）

第7章 学生支援（金寺教務主事，北田学生主事，畔田寮務主事）

第8章 施設・設備（西澤副校長）

第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム（西澤副校長）

III 研究活動

第10章 研究体制と支援（瀬戸副校長）

IV 社会活動

第11章 地域社会との連携（瀬戸副校長）

第12章 国際社会との交流（瀬戸副校長）

V 広報・評価・管理運営

第13章 広報活動（八田図書情報主事）

本校からの説明後、質疑応答、意見交換が行われた。

主な質疑、意見は以下のとおり。

- （委員）専攻科のことで少しお尋ねしたいのですが、カリキュラムの見直しを、学年進行で検討しているということですが、専攻科は、2年生でも専門の科目は打ち込まれていて、あるいは1年生から打ち込まれているのか。

（本校）本校の専攻科というのは、まず本科のほうで概ね各分野の基礎が終わってしまうということもあって、まず専攻科全体としては基本的には各基盤の能力を持ったうえで、近隣の、例えば機械であれば電子系とか情報系の知識もちょっと幅を広げるというのが一つの視点です。

（委員）本科の5年のところで専門科目が、本科の2年生でも専門科目が入ってますか。高校では2年生になりますが。専門科目が入ってますか。

（本校）1年生から入っております。1年生、2年生徐々に増えていく楔型と言っているのですけれども、そういう形でだんだん増えていきます。

- （委員）寮の食堂は、学生がお昼ご飯を食べる時の食堂ですか。

（本校）寮のほうは寮生用食堂です。通学生用には福利厚生施設があり、生協が運営している。寮の食堂は別業者が運営しています。

（委員）私の大学では学生数が少ないので、食堂の問題はすごく深刻です。競争相手がいないです。こちらは競争相手はいるのですか。今運営している業者が気に食わなかったら、やり直すことは出来るのですか。

（本校）業者とは複数年契約をし、契約期限が終える時に入札を行っています。特に留学生は食事の面、宗教上の制限があり、きちっと対応してくれるということを約束した上で、運営を行っています。

- （委員）留学生は1学年に何人いて何%くらいの割合になるのでしょうか。

（本校）留学生は全体で10名おり、1学年に3名ずつです。多くはないのですが、実際に来る国はモンゴル、マレーシアといったアジア圏で、文化的な違い、日本人と留学生の生活スペースを分けていないため、少し上手く行っていなかったところもあります。そのようなことから、留学生に対しては個別に指導を行い、安全管理面では、長期休業中にどこでどう過ごしているかということを確認しています。

- （委員）図書館の学外者の利用率というのはどのようなものでしょうか。

（本校）率と言われると困るのですけれども、昨日、一昨日を見ても定期的にご来場いただいている方もいます。今はコロナウイルスなので、ご遠慮いただきお断りをしているところです。

（委員）図書の廃棄はどういう考え方でやっているのですか。

（本校）基本的には重複図書に関しては1冊に絞ったり、利用率が少ないので今のところ廃棄はやっていません。

【まとめ】

（浅野議長）今日はいろいろな面で石川高専の全体的な取り組みをお聞かせいただいて、非常に勉強となりました。

大学との違いということと言えますと、例えばFDの出席率は天と地ほど違う。首に縄を付けて引きずり出すわけにはいかなくて、その辺がなかなか苦勞している。石川高専は上手く行っている。

それと面白い取り組みでは、図書館関係のところでは、ブックハントというのがあり、最近どうい本が流行っているのかというのが分からない。大きな書店に行くと、図書が積み上げてあるのを見ると、こういう本が流行っているのかが感覚的に分かる。我々の大学では最近流行りの図書のコーナーというのがある、この本が流行っていますよということをやったりしています。それと同じような取り組みなのかなと思って、ブックハントというのもなかなか面白い取り組みだなと思います。

【閉 会】

須田校長から、委員に対する謝辞に引き続き、総務課長から閉会宣言があった。

（以上）

（5）資 料

1. 石川工業高等専門学校の現況-外部評価のための資料-
2. 石川工業高等専門学校の現況（資料編）
3. 石川工業高等専門学校 管理運営関係，地域・国際連携関係，教務関係，学生支援関係，学生寮関係事項
4. 石川工業高等専門学校運営諮問会議規程
5. 石川工業高等専門学校「学校要覧」（2019年度版）
6. 石川工業高等専門学校 2020 学校案内リーフレット
7. 石川工業高等専門学校の課題 平成 30 年度 外部評価報告書
8. 「石川高専だより」No. 97, No. 98
9. トライアル研究センター ニュースレター Vol. 39, Vol. 40
10. 「灯火」第 127 号，別冊 33 号
11. 石川工業高等専門学校評価シート（別途：5段階評点基準）（委員のみ）

3 外部評価シート

記入要領

評点欄には下の基準による5段階評価の評点をご記入ください。

- 5：優れている あるいは 適切である。
- 4：やや優れている あるいは ほぼ適切である。
- 3：普通 あるいは どちらとも言えない。
- 2：やや劣っている あるいは あまり適切とは言えない。
- 1：劣っている あるいは 適切とは言えない。

部	章番号	章タイトル	令和元年度		平成30年度
			自己評価 平均評定 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)	委員評価 平均評点 (5段階)
第Ⅰ部 理念・目的		本校の精神			
		沿革 概要及び卒業生			
	1	学校の目的	4.8	5.0	5.0
第Ⅱ部 教育活動	2	教育組織（実施体制）	4.5	4.7	4.6
	3	教員及び教育支援者等	4.6	5.0	4.8
	4	学生の受け入れ	4.8	5.0	5.0
	5	教育の方法および内容	4.5	4.7	4.8
	6	教育の成果	4.5	4.7	4.3
	7	学生支援 学習支援等（7.1～7.4） 進路指導（7.9～7.10）	4.7	5.0	5.0
		学生支援 課外活動・生活指導 ・学生相談等（7.5～7.7）	4.7	4.7	4.8
		学生支援 学生寮（7.8）	4.6	4.5	4.5
	8	施設・設備 共同利用施設	4.0	4.0	4.3
	9	教育の質の向上及び改善のための システム	4.6	4.5	4.3
第Ⅲ部 研究活動	10	研究体制と支援	4.6	4.7	4.6
第Ⅳ部 社会活動	11	地域社会との連携	4.5	4.7	4.6
	12	国際社会との交流	4.7	4.5	4.1
第Ⅴ部 広報・評価・ 管理運営	13	広報活動	4.5	4.7	4.5
	14	評価			
	15	管理運営			

委員のご意見

部	章	記入欄
第Ⅰ部 理念・目的	本校の精神 沿革 概要及び卒業生 第1章 学校の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当な表現だと思われる。 ・ 地域への人材輩出と、向学心醸成及びその進学サポートが一貫して推進されています。 ・ 高専機構の理念・目的としてグローバル化と地域貢献を掲げていることは妥当である。 ・ また高専機構の第4期中期目標の基本方針として、地域や産業界と連携して、Society5.0で実現するための人材育成も重要である。
第Ⅱ部 教育活動	第2章 教育組織（実施体制）	<ul style="list-style-type: none"> ・ FD活動は高等教育機関では重要であるが、参加率が非常に高い。このことは誇って良いことである。強制もせずに高率を保っていられるのは何故なのか教えてほしいくらい。 ・ オープンカレッジの内容がどのようなものか、もう少し知りたい。GPAを使っているということであるが、各講義での平均点をどのように制御しているのか分かったと良かった。
	第3章 教員及び教育支援者等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方に焦点が当たっている現在、教職員の配置状況の適切性について、どう評価しているかを盛り込んでいただけるとよいと思います。 ・ 推薦選抜枠について、現在の割合について、どう評価しているかを盛り込んでいただけるとよいと思います。
	第4章 学生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年インプット申し上げました「資料が精緻すぎて論点整理が難しい」のでは、という意見に対して今年度の「令和元年度の概要」を作成ご対応感謝申し上げます。 ※こういった点に接することで貴校運営の継続改善姿勢の表れと高く評価いたしました。
	第5章 教育の方法および内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業現場においてもダイバーシティ、特に女性活躍の視点が非常に重要になってきています。この視点から、建築、環境都市以外の学科の女性比率がそんなに高くないということは、「学生の受け入れ」視点からも改善課題の可能性があると感じました。 ・ 高専機構が提供するクラウドシステムと高専独自のオンプレシステムが並立することはあまり効率的ではない

	第6章 教育の成果	<p>ので、今後も一元化の努力が必要と思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間約2.1倍の高倍率を確保し、2020年度は2倍を少し切ったものの、3年連続で全国高専の中でもトップクラスの約2倍の倍率を維持していることは高く評価される。 ・昨年度退学率の低さ全国4位、留年率の低さ全国5位となっており、丁寧な学生指導の賜物と推定される。
	第7章 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸地域に45%の学生が就職していることは地域との連携が密であることの結果であり評価される。 ・数学や物理のCBTで、引き続き51高専中上位15以内にランクインしたことは評価される。 ・課外活動の成果も素晴らしいが、それが教員の過剰な負担にならないように、機構の支援を受けて外部コーチ（OB教職員）への委嘱を進めておりその姿勢は評価される。
	第8章 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科での3ヶ月にわたる長期インターンシップの必修での取組も先駆的であり、当該企業への就職率30%という結果も評価される。
	第9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム	
第Ⅲ部 研究活動	第10章 研究体制と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動についても科研費の活動を通してよくやっているという状況がよく分かる。各先生方は教育面での負担が大きい中、研究活動を続けるのはなかなか厳しいと思われるが、何か研究をすることへのインセンティブはあるのか。 ・先生方お忙しい中、毎年結果実績のともなう活動は高くご評価できます。 ・科研費採択総数も36件と、教員数が多くないにも関わらず全国トップクラスの採択率を維持していることは高く評価される。在籍教員数あたりの採択件数でも全国ランキングを表示して、全国1位であることをアピールしてよい。
第Ⅳ部	第11章 地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会への貢献も頑張っておられると思うが、無料

社会活動	第 12 章 国際社会との交流	<p>の公開講座を続けることはいつまでも続けられるものではないと思う。有料化を検討すべき時期なのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座について、低年齢層に重点を置いておられる点、学校としての意思決定が、しっかり行われているように感じられ、よいと思います。 ・[地域社会との連携]女性比率の視点から、貴校建築、環境都市両学科は、地域社会に深く影響を与える可能性を開いてきたと思います。理工系教育機関として少子高齢化という大きな社会課題へのアプローチとして可能性のある問題視点とも感じました。 ・地域に就職した卒業生を通じて技術振興交流会を着実に育て、地域に貢献していることが見て取れる。これも地域からの求人にも答えていることの証左であろう。 ・全国の高専の平均値を大きく上回り、4年生全員が海外研修参加という実績は高く評価される。地域で就職する可能性が高い御校の卒業生が果敢に海外の仕事にチャレンジするよう、この素晴らしい取り組みを継続・発展していただきたい。
第V部 広報・評価・ 管理運営	第 13 章 広報活動 第 14 章 評価 第 15 章 管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用者数の低下はネット利用の増加と裏腹の関係にあり、やむを得ない面がある。
<p>[全体についてのご意見]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算も人も制限のある中で、たくさんの活動をされて、しっかりと成果を出されていると思います。 ・各活動に対して評価し、効果が薄いものを止める判断も重要かと思えます。この止める判断も、今後に活かせる貴重な情報になるかと思えますので、何らかの形で残せるとよいかと思いました。 ・一般的に組織マネジメント視点から組織目標主旨を最大化することに真摯に取り組まれ、着実に成果を上げる組織運営、本年度も睜目すべき成果と思えます。 ・校長のリーダーシップの下、教職員が一丸となって教育・研究・地域貢献に尽力され、全国の高専の中でもトップクラスの成果を上げていることがよく理解できた。今後もこれに甘んじることなく、社会から求められる人材も次第に変化しており、社会ニーズに合った人材を輩出するための不断の改革を進めていただきたい。 ・基礎人口の少ない石川県において今後も高い志願倍率を維持するためには女子学生の志願率を上げることは欠かせない。今後のさらなる努力を期待したい。 		

Ⅲ 運営諮問会議の意見の要約（講評）

運営諮問会議議長 浅野哲夫

石川工業高等専門学校（以下、石川高専）から、全体の概要説明に続いて、「理念・目的」、「教育活動」等に区分した事項について説明があり、その後、質疑応答・意見交換が行われた。なお、委員からの意見は概ね以下のとおりであった。

1 学校の理念・目的について

基本理念，教育理念および学習目標は適切に設定されている。

2 教育活動（学生支援等含む）について

4年連続で目指した2倍以上の高い入試倍率について、達成できなかったが熱心な活動の成果でもあり、今後の更なる活躍が期待される。

地元就職率（北陸地域）が45%と高く、地元企業との繋がりが強いということは素晴らしい。

3 研究活動について

科研費を継続して高いレベルで実績を挙げていることは素晴らしい。

4 社会活動（地域社会との連携，国際社会との交流）について

地元企業に就職した卒業生を通じて技術振興交流会を育み，地域に貢献している。

5 広報・評価・管理運営

図書館の利用者数は気になるが，学生のニーズに答える「ブックハント」は面白い取り組みだと思う。

以上，石川高専の教育，研究，社会活動等については，各委員から積極的に評価する意見が多く出された。校長先生のリーダーシップの下，教職員が一丸となり高専教育に取り組み，リーダ的存在になることを期待する。

運営諮問会議開催の公表

- ・石川工業高等専門学校ホームページ

令和元年度運営諮問会議を開催

2月28日(金)本校において、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を開催しました。この会議は、地域の学外有識者の方々に本校の教育活動、研究活動、社会活動および管理運営等について、自己点検評価に基づき評価をいただくもので、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としています。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者4名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席しました。

はじめに須田校長が挨拶を行い、その後、議長に北陸先端科学技術大学院大学学長の浅野哲夫氏が選出されました。

議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献および国際交流等について各担当者から説明がありました。その後、質疑・意見交換が活発に行われ、多くの有意義なご意見をいただき、最後に浅野議長から全体の講評がありました。

本校では、今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげていきます。



会議風景



議長の浅野北陸先端大学長
(北陸先端科学技術大学院大学学長)

- ・刊行物

文教ニュース 2020年3月16日

石川高専
令和元年度運営諮問会議

石川高専は2月28日、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を開催した。同会議は、石川高専の教育活動、研究活動、社会活動などについて自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言を行い、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としている。同会議には、大学や地域企業等の学外有識者4名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席した。はじめに須田義昭校長が挨拶を行った後、議長に北陸先端科学技術大学院大学学長の浅野哲夫氏が選出された。



議長の浅野北陸先端大学長

文教速報 2020年3月13日

石川高専 運営諮問会議を開催

石川高専では、学外有識者による外部評価を行う運営諮問会議を去る2月28日に開催した。石川高専の教育活動、研究活動、社会活動などについて自己点検と評価に基づき、学外有識者による評価と提言を行い、今後の教育の改善、研究や地域貢献の活性化を図ることを目的としている。

同会議には、大学や地域企業等の学外有識者4名と学校側から校長、副校長、主事をはじめ幹部教職員14名が出席。はじめに須田義昭校長の挨拶後、議長に北陸先端科学技術大学院大学の浅野哲夫学長が選出された。

議事に入り、須田校長による学校の概要説明に続き、教育活動、学生指導、研究活動、地域貢献および国際交流等について各担当者から説明された後、質疑・意見交換が活発に行われた。委員からは多くの有意義な意見と提言があり、最後に浅野議長から全体の講評が述べられた。同校では今回の貴重な提言を活かして一層の運営改善を行い、今後の教育研究活動の充実につなげることを目指している。

今回の運営諮問会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクを着用して実施された。



おわりに

新型コロナウイルス感染症が広まる不穏な状況下にあつて、令和元年度の運営諮問会議を開催できたことに対し、委員をはじめとする関係者各位にまずは感謝を申し上げたい。本校の1年間の活動や取組に対する外部の有識者から忌憚のないご意見をうかがう本会議は、本校にとって大変貴重な場であり、開催できたことは本当に幸いなことであつた。感染症対策を万全に整えたうえで、簡潔な議事進行に努めていった中で、次のような貴重なご意見をいただいた。

本校の使命である教育活動全般についての委員の総合的な評価は例年になく高いものであつた。特に、少子化に伴う中学生の減少にもかかわらず高い入試倍率を維持していることを評価していただいた。教職員一丸となつた地道な入試広報活動の効果であり、優秀な生徒に技術者としての夢を与えるという本校の理念を教職員が理解していることの表れと思われる。教育や学生支援に関するFD研修を数多く実施し、多くの教職員が参加して研鑽に努めていることもその理由である。一方で、女子学生や留学生を増やすことなど多様な人材育成に努めるべきとのご意見もいただいた。

研究体制については、科研費の採択件数が高専の中でトップクラスを維持していることが研究活動の高さを示しているという評価であつた。このことを含め本校の研究活動を学外に積極的にアピールすべきとの意見をいただいている。また、教育や学生支援に教員の時間が過剰に取られると研究活動が停滞するので、負担軽減に一層努力すべきとの提言もいただいた。このことは、委員の評価の低かつた教育の質の向上及び改善に関連すると思われる。

地域連携については技術振興交流会による教職員と企業との交流活動や、インターンシップや企業技術説明会を通じての学生が地域企業を知る機会を設けることに対して例年通りの高い評価をいただいた。また地域連携活動と入試広報とを絡めた活動についても継続したい。

国際交流について、本校の取組自体には好意的なご意見をいただいたが、実質的に学生の海外活動が増えたとはいえ評価はやや低い。また世界的な感染症のまん延といった極めて難しい状況もあり、改めて今後の取組のあり方を模索する必要がある。

全体としては、校長のリーダーシップの下、石川高専の活動全般としての評価は高いが、委員からは引き続いて改善の努力をするようにというご意見であつた。しかしながら、世界的な感染症問題は、この会議の後予想以上に深刻な状況になっている。外出や人との接触が制限される中で、学生の学びをどのように確保していくかは大変難しい課題である。本校としては情報基盤を活用した遠隔授業などを想定している。緊急事態に対する本校教職員や学生の対応は素晴らしく、保護者の理解も良好である。今後の展開については予想がつかないが、教職員と学生が一丸となつて、保護者の理解を得ながら困難に立ち向かっていけると確信している。

最後に、年度末のご多用かつ大変な状況の下で、多大なご尽力をいただいた運営諮問会議委員各位に対し、深甚の謝意を表します。また、自己点検評価報告をまとめた本校の総合企画会議、点検評価委員会の委員各位、報告書・資料集の取りまとめおよび作成にあつた総務課の皆さんにお礼を申し上げます。

令和2年3月26日

副校長（管理運営担当） 西澤 辰男



石川工業高等専門学校の課題
令和元年度 外部評価報告書

発行 令和2年6月
編集 総合企画会議
発行者 石川工業高等専門学校
〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条
TEL 076-288-8000
FAX 076-288-8014
URL <http://www.ishikawa-nct.ac.jp/>



独立行政法人国立高等専門学校機構

石川工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College